



猪高の森自然観察だより 3月号

開催日時：2024年3月24日（日）

天候：雨、雨の為観察会は中止、来ていただいた方と散策の形で行いました。（左上の画像はカラスザンショウの葉痕）

気温：最低 4.4℃、最高 10.1℃（名古屋に於いて）

テーマ：猪高版・春の七草と棚田の春

参加者構成：一般 13 名（内 NACS-J 会員 3 名）

コース：森の集会所 → 畑 → 井堀の大楠 → 井堀下池 → 井堀の谷地田（棚田） → ハンノキ湿地 → こもれば池 → シダレザクラの里 → 森の集会所

（画像は当日撮影以外のものを含みます）

3月23日から26日の4日間は雨。記録的な雨天の長さとのことでした。先月に引き続き観察会は中止、散策会に変更して行いました。当初予想されていたソメイヨシノの開花宣言も低温続きのため、大幅に遅れこの27日にも宣言は出されていません。

○棚田で「まっくろくろすけ!？」を見つけました。



見つけた時の第一印象は、まさに「何、これっ?」でした。

白っぽい二つの部分が目のように見え「まっくろくろすけ」のよう。

正体は「イチョウウキゴケ」と呼ばれる1属1種の浮遊性

のウキゴケ科の植物でした。

白い二つの部分は葉状体（コケ植物の葉に相当する部分）です。かつては、稲刈りの終わった水田などに普通に見られたらしいのですが、除草剤の使用や乾田化の影響で数を減らしつつあるとのことでした。又、「自然環境がどの位保持されているか」、の指標生物としての扱いもできるとのこと、無農薬・無化学肥料で棚田が管理されている故の発見でした。この葉状体はやがてイチョウの葉のような形に成長し、その名の由来となります。このイチョウウキゴケは湿った土ならばその上でも成長する偉丈夫ですが、環境条件が変わると数を減らし、消えてしまうとのことでした。

名古屋市では、「準絶滅危惧種」に指定されています。

○ピロートツリアブが飛んでいました。

この春の時期にしか見られないアブの仲間です。SNSなどで配信されると「かわいい!」なんて評価をうけてしまいます。



画像のように体は「モフモフカフカ」の毛だらけ、長い口吻で花の蜜を吸いに飛んできます。

散策会当日は雨の為見られませんでした。下見の22日は良い天気だったので、結構な数に出会いました。

ホバリングをしながら花の近くを飛び回り、人を刺したりすることもないので、見つけやすいと思います。

幼虫はヒメハナバチの幼虫や蛹に寄生、蜜や花粉を奪い、最終的にはヒメハナバチの幼虫や蛹に取りついて栄養を吸い取ります。二つの複眼がくっついているように見えるのがオス、離れているのがメスです。

是非一度探してみてください。

○カルガモペアが今年もいました。



昨年、一昨年とカルガモたちが、この棚田で子育てをしました。

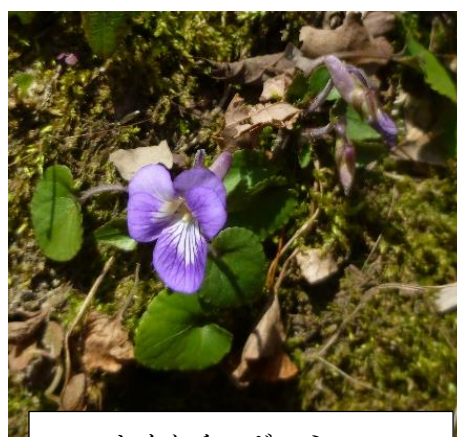
今年も、親子の姿が見られるでしょうか？

○春の訪れはあちらこちらに感じられます。



アオキの雄花

アオキは雌雄異株。実の付いた株は雌株と思ってよいでしょう。



ニオイタチツボスミレ

スミレの仲間他にも、マキノスミレやニョイスミレが確認できました。



アブラムシのかたまり

アブラムシは陸上での動物プランクトンにあたります。

食物連鎖の中の一番下の部分です。



ツクシ (棚田にて) (3/17)



ミヤマガマズミ花 (3/22)



アラカシ新芽 (3/17)



キタキチョウ



テングチョウ



ムラサキシジミ

上記3種のチョウは成虫越冬のチョウです。暖かい、晴れた日に飛びまわります。この他にもルリタテハが成虫で冬越ししています。



(オオ?)トガリアミガサタケ



チャワンタケの仲間

キノコの季節は秋だけではありません。猪高緑地で春のキノコの代表が左の2種です。他にも、ハルシメジ、エノキタケ、シイタケなども春のキノコです。

次回、観察会は 4月28日(日)

森の集会所集合 9:30~です。

名東自然倶楽部のHPでは毎月の猪高の森の自然観察会の紹介をしています。

<http://sizen.ciao.jp/> から是非ご覧になってください。

(右上の自然観察グループをクリックしてください。)



コバイモの花

これは植えられた種。

シダレザクラの里にて (3/22)